

2021年度第3四半期 決算説明資料

2022年2月8日
株式会社 神戸製鋼所
証券コード 5406

KOBELCO

1. 2021年度第3四半期 業績概要
2. 2021年度 業績見通し
3. 参考情報

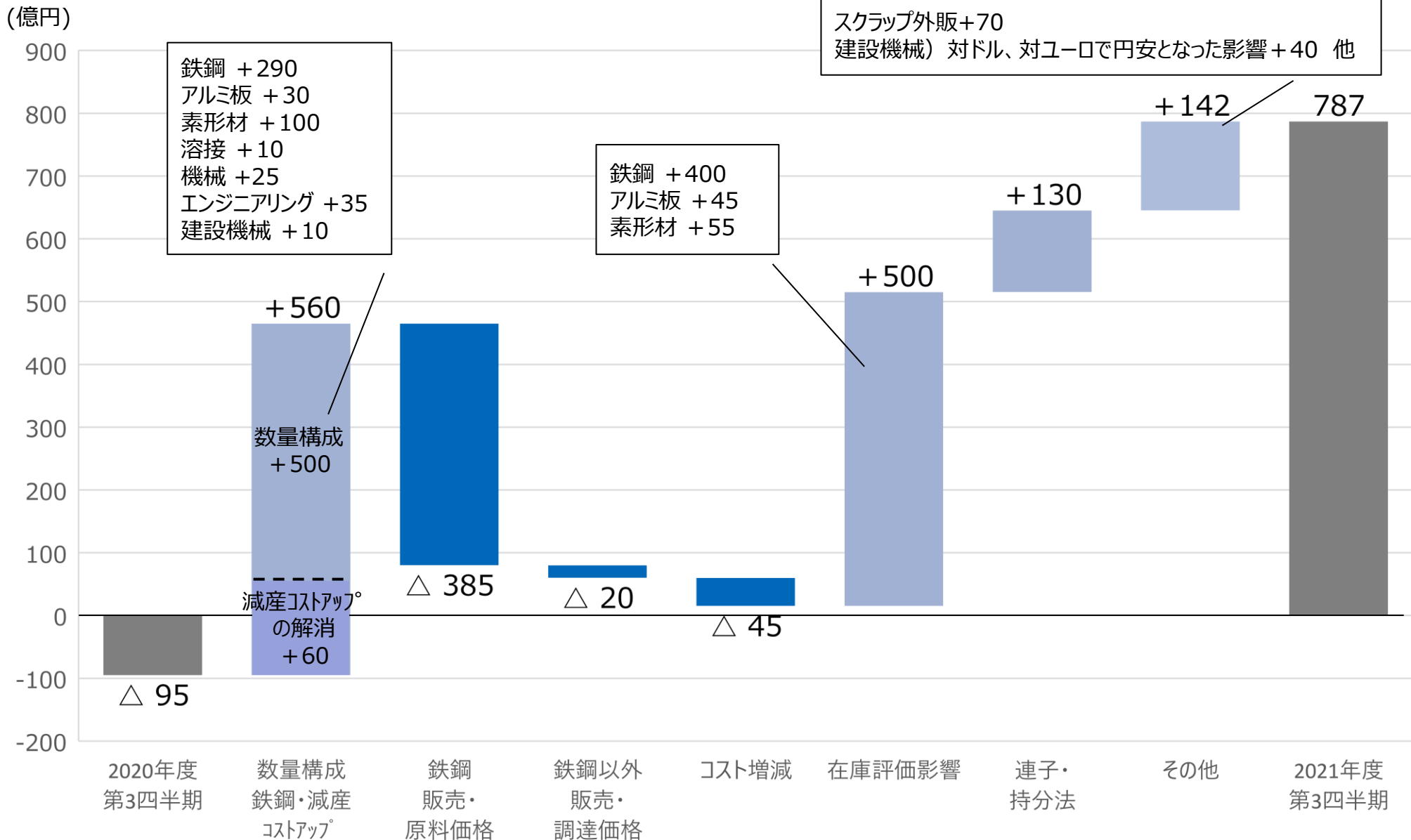
1. 2021年度第3四半期 業績概要

売上高・・・新型コロナウイルス感染症の拡大影響（以下、コロナ影響）を受けた前年同期に比べて、自動車向けを中心に販売数量が増加したため増収
 経常損益・・・鉄鋼において原料価格の上昇に伴うメタルスプレッドの悪化があるものの、販売数量の増加や、在庫評価影響の改善などにより損益は改善

(単位：億円)

	2020年度 3Q ①	2021年度 3Q ②	増減 ②-①
売上高	12,110	14,848	+ 2,737
営業損益	24	765	+ 741
経常損益	△95	787	+ 883
在庫評価影響を除く	△45	337	+ 383
特別損益	※ 131	—	△131
親会社株主に帰属する 四半期純損益	38	540	+ 502

※ 固定資産売却益 98億円
 段階取得に係る差益 32億円
 投資有価証券売却益 29億円
 減損損失 △29億円



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

（単位：億円）

	2020年度 3Q ①	2021年度 3Q ②	増減 ②-①
鉄鋼アルミ	4,964	6,631	+1,667
素形材	1,660	2,345	+685
溶接	520	572	+52
機械	1,256	1,186	△70
エンジニアリング	908	898	△9
建設機械	2,479	2,834	+355
電力	533	585	+51
その他	171	181	+9
調整額	△384	△388	△4
合計	12,110	14,848	+2,737

【経常損益】

（単位：億円）

	2020年度 3Q ③	2021年度 3Q ④	増減 ④-③
鉄鋼アルミ	△325	313	+638
素形材	△109	71	+180
溶接	9	27	+17
機械	85	85	△0
エンジニアリング	32	90	+57
建設機械	93	128	+35
電力	115	77	△38
その他	14	24	+9
調整額	△12	△29	△17
合計	△95	787	+883

(単位：億円)

		2020年度 3Q ①	2021年度 3Q ②	増減 ②-①
鉄鋼	売上高	3,983	5,425	+1,442
	経常損益	△318	263	+581
	在庫評価影響を除く	△288	△106	+181
アルミ板	売上高	980	1,205	+224
	経常損益	△6	50	+56
	在庫評価影響を除く	13	25	+11
合計	売上高	4,964	6,631	+1,667
	経常損益	△325	313	+638
	在庫評価影響を除く	△275	△81	+193

鉄鋼

【売上高】2020年度3Q：3,983億円 → 2021年度3Q：5,425億円（前年同期比+1,442億円）

【経常損益】2020年度3Q：△318億円 → 2021年度3Q：263億円（前年同期比+581億円）

■粗鋼生産：499万t（前年同期比+86万t）

■販売数量：400万t（前年同期比+62万t）

・コロナ影響からの回復による需要増加に伴い、自動車および建築向けを中心に増加

■販売価格：99,900円/t（前年同期比+19,300円/t）

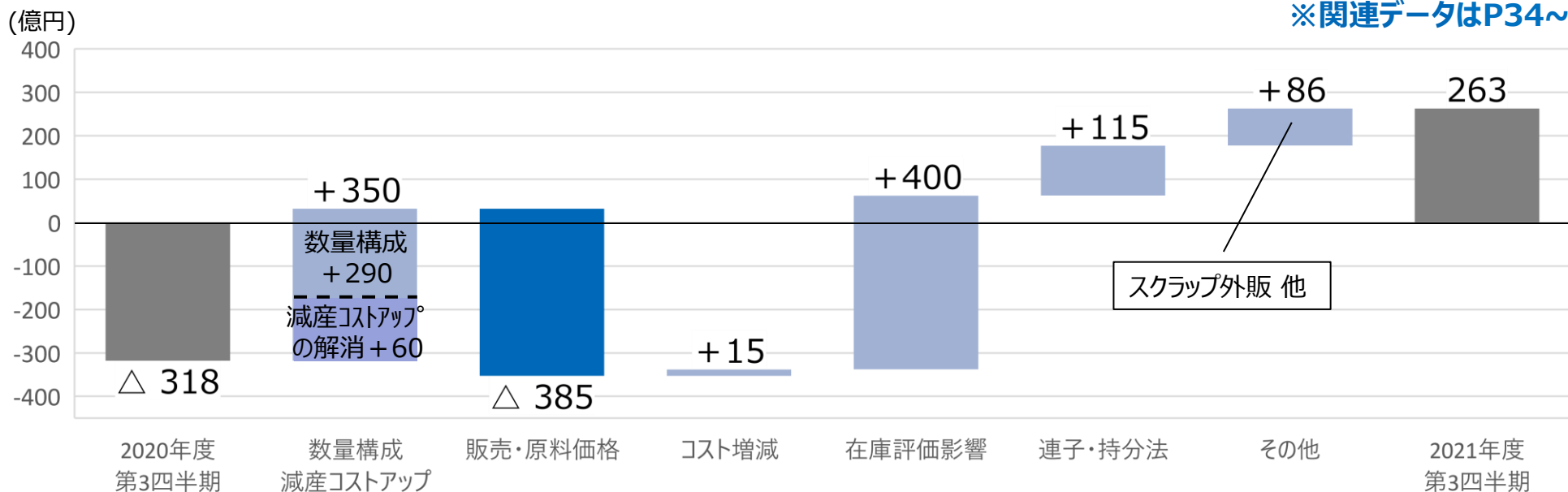
■損益変動要因

・販売数量の増加

・原料価格上昇分の販売価格への転嫁時期のずれ影響の拡大によるメタルスプレッドの悪化

・原料価格上昇に伴う在庫評価影響の改善

※関連データはP34~36



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】2020年度3Q：980億円 → 2021年度3Q：1,205億円（前年同期比+224億円）

【経常損益】2020年度3Q：△6億円 → 2021年度3Q：50億円（前年同期比+56億円）

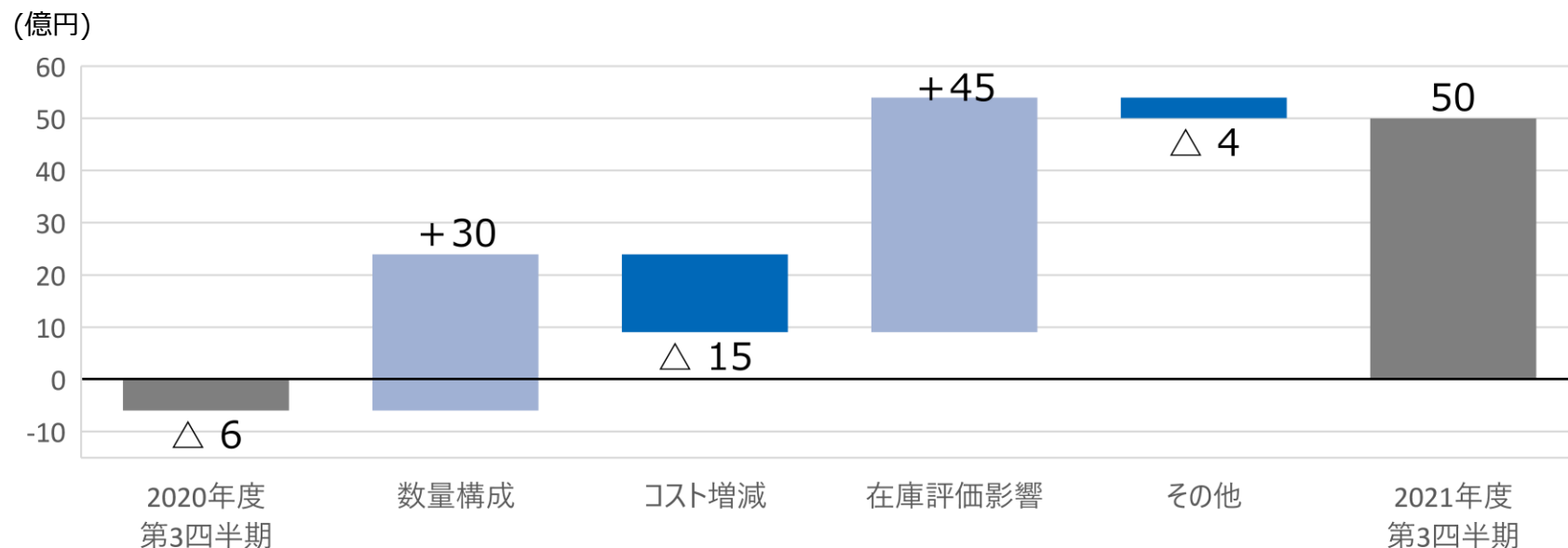
■ 販売数量：259千t（前年同期比+34千t）

- ・飲料用缶材向け：拡販による増加
- ・IT・半導体向け：半導体製造装置向けを中心に、堅調に推移
- ・自動車向け：需要増および拡販による増加

■ 損益変動要因

- ・販売数量の増加
- ・アルミ地金市況の上昇に伴う在庫評価影響の改善

※関連データはP35~36



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2020年度 3Q ①	2021年度 3Q ②	増減 ②-①
売上高	1,660	2,345	+685
経常損益	△109	71	+180
在庫評価影響を除く	△109	16	+125

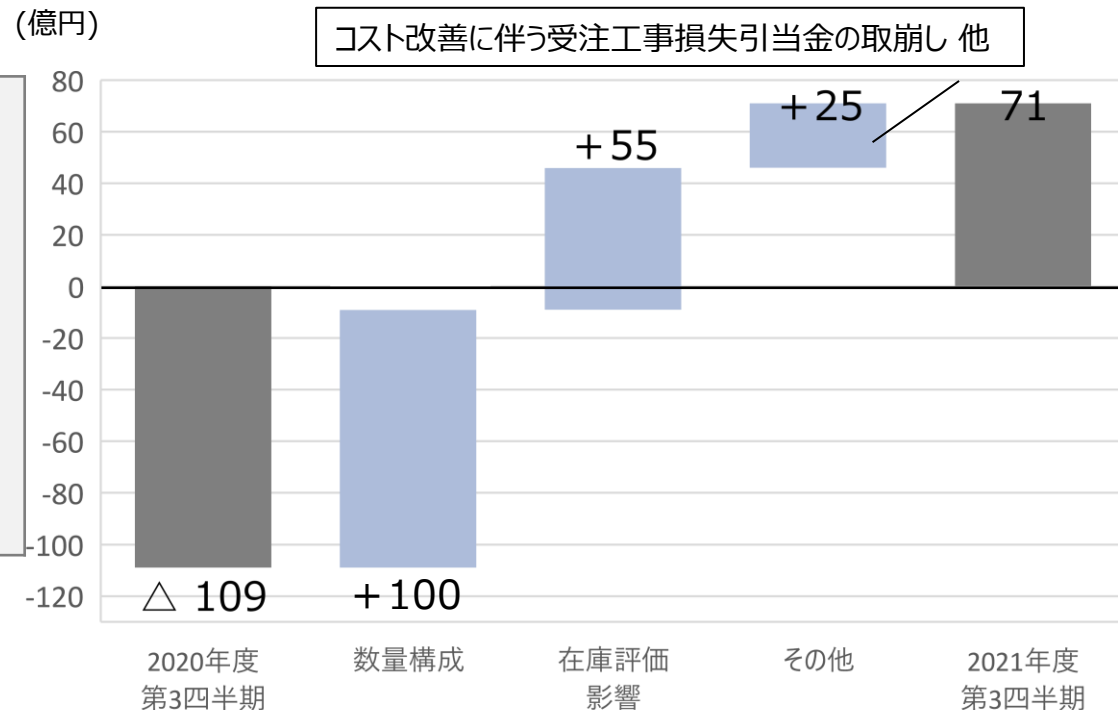
■ 販売数量

- ・自動車向けを中心に増加
(サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉など)

■ 損益変動要因

- ・販売数量の増加
- ・銅市況の上昇に伴う在庫評価影響の改善
- ・コスト改善に伴う受注工事損失引当金の取崩し

※関連データはP35~36



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2020年度 3Q ①	2021年度 3Q ②	増減 ②-①
売上高	520	572	+ 52
経常損益	9	27	+ 17

■ 販売数量

国内：自動車および建築鉄骨向けなどで増加

海外：東南アジアにおける自動車向け、建設機械向けなどで増加

■ 損益変動要因

- ・販売数量の増加

※関連データはP35

(単位：億円)

	2020年度 3Q ①	2021年度 3Q ②	増減 ②-①
売上高	1,256	1,186	△70
経常損益	85	85	△0
受注高	※ 909	1,467	+558

※従来は当社と主要な連結子会社の受注高を集計。

当期より当社と全ての連結子会社の受注高を集計する方法に変更したことに伴い、前期の受注高も再集計。

■ 受注高

- ・設備投資の回復により産業機械・圧縮機ともに増加

■ 損益変動要因

- ・案件構成差

(単位：億円)

	2020年度 3Q ①	2021年度 3Q ②	増減 ②-①
売上高	908	898	△9
経常損益	32	90	+57
受注高	930	1,362	+431

■ 受注高

- ・還元鉄関連事業（MIDREX[®] プラント）の受注などにより増加

■ 損益変動要因

- ・還元鉄関連事業（MIDREX[®] プラント）の売上増加などの案件構成差

(単位：億円)

	2020年度 3Q ①	2021年度 3Q ②	増減 ②-①
売上高	2,479	2,834	+355
経常損益	93	128	+35

■ 販売台数

[油圧ショベル]

コロナ影響からの需要回復、インフラ投資の拡大により、東南アジア、欧州を中心に増加

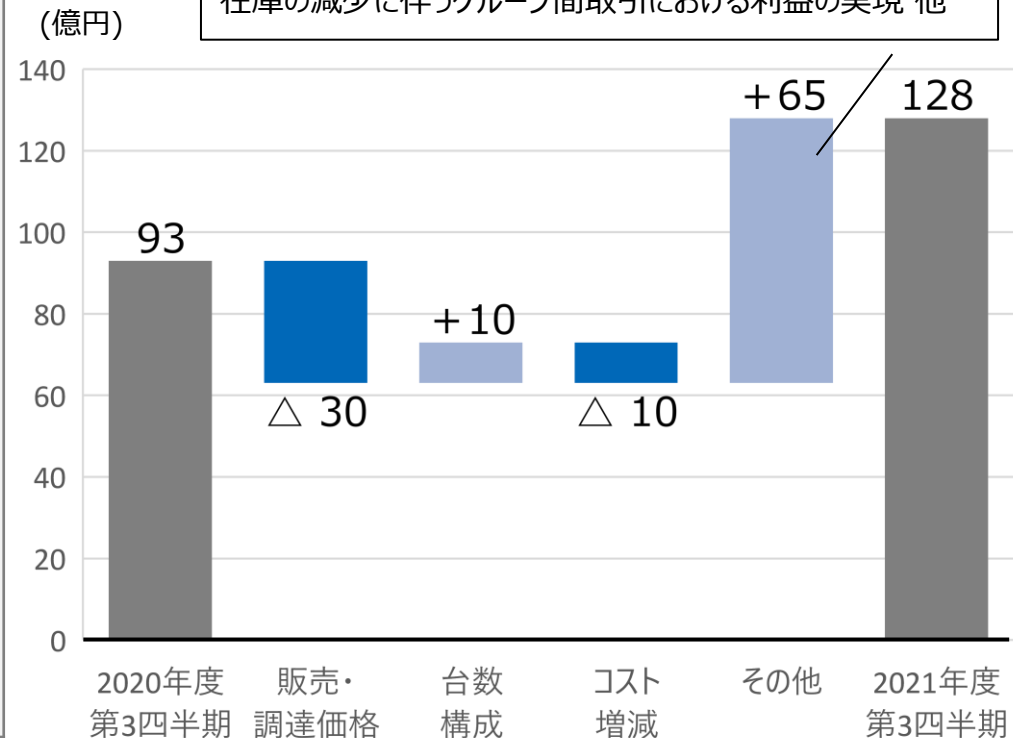
[クローラクレーン]

顧客の工事着工遅れなどの影響を受けた日本や、エンジン認証問題の影響を受けた北米で減少

■ 損益変動要因

- ・鋼材などの調達コストの増加
- ・活動水準の回復に伴う開発費・経費等のコストの増加
- ・対ドル、対ユーロで円安となった影響
- ・在庫の減少に伴うグループ間取引における利益の実現

対ドル、対ユーロで円安となった影響
在庫の減少に伴うグループ間取引における利益の実現 他



(単位：億円)

	2020年度 3Q ①	2021年度 3Q ②	増減 ②-①
売上高	533	585	+51
経常損益	115	77	△38

- 販売電力量 …… 減少
 - ・真岡発電所の稼働日数が法定点検の実施により減少
- 販売単価 …… 上昇
 - ・石炭価格の値上がりによる影響
- 損益変動要因
 - ・真岡発電所の販売電力量の減少

2. 2021年度 業績見通し

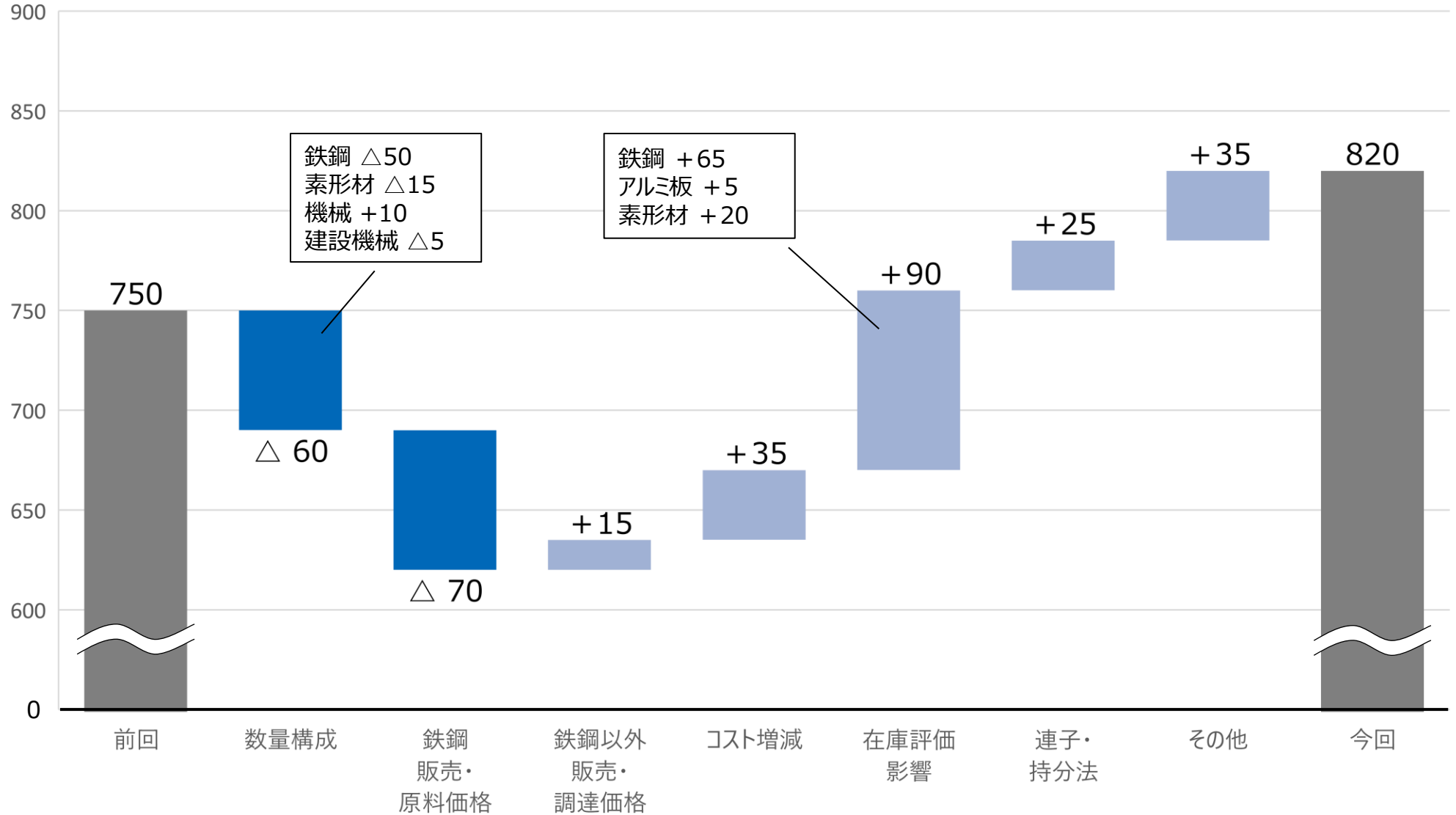
- 自動車生産減少による素材系での数量減
- 石炭価格の高騰が継続する中、販売価格への転嫁時期のずれにより、鉄鋼メタルスプレッドは悪化
- 鉄鋼での操業影響に伴う一時的なコストアップが発生する一方、各事業でのコスト削減が進展
- 原料価格上昇に伴い、在庫評価益が拡大

(単位：億円)

	2020年度 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	17,055	9,721	11,179	20,900	9,721	11,179	20,900	+3,845	-
営業損益	303	468	381	850	468	382	850	+547	-
経常損益	161	443	307	750	443	377	820	+659	+70
在庫評価影響を除く	201	193	167	360	193	147	340	+139	△20
特別損益	25	-	-	-	-	※ △70	△70	△95	△70
親会社株主に帰属する 当期純損益	232	345	155	500	345	155	500	+268	-

※ (株)コベルコ マテリアル銅管の株式譲渡損 △70億円

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

() は需要変動の影響を受けるユニット

自動車	<p>(鉄鋼、アルミ板、サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉、溶接) 海外でのコロナ影響による部品調達不足影響を受けて、前回見通しを下回ると想定 《日系自動車メーカー生産台数(海外含む)の想定(前年同期比)》</p> <table border="1" data-bbox="375 425 1365 596"> <thead> <tr> <th></th> <th>1Q</th> <th>2Q</th> <th>3Q</th> <th>4Q</th> <th>通期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前回</td> <td>+60%</td> <td>△5%</td> <td>△10%</td> <td>+15%</td> <td>+10%</td> </tr> <tr> <td>今回</td> <td>+60%</td> <td>△5%</td> <td>△15%</td> <td>+5%</td> <td>+5%</td> </tr> </tbody> </table>		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前回	+60%	△5%	△10%	+15%	+10%	今回	+60%	△5%	△15%	+5%	+5%	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期															
前回	+60%	△5%	△10%	+15%	+10%															
今回	+60%	△5%	△15%	+5%	+5%															
航空機	<p>(アルミ鋳鍛、チタン) 旅客需要の減少により、今後数年間は市場は低迷すると想定</p>																			
造船	<p>(鉄鋼、鋳鍛鋼、溶接) 国内の新造船需要は回復基調と想定</p>																			
飲料缶	<p>(アルミ板) 需要は堅調に推移すると想定</p>	前回並み																		
IT・半導体	<p>(アルミ板、銅板) 旺盛な需要が継続すると想定</p>																			
建築土木	<p>(鉄鋼、溶接) 建築分野の需要は回復基調と想定</p>																			

(単位：億円)

増減

③-①

③-②

【売上高】

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)				
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
鉄鋼アルミ	6,963	4,273	4,977	9,250	4,273	4,927	9,200	+2,237	△50
素形材	2,381	1,532	1,768	3,300	1,532	1,738	3,270	+889	△30
溶接	700	380	380	760	380	380	760	+60	-
機械	1,753	797	913	1,710	797	903	1,700	△53	△10
エンジニアリング	1,361	556	884	1,440	556	884	1,440	+79	-
建設機械	3,331	1,940	1,960	3,900	1,940	1,860	3,800	+469	△100
電力	804	375	565	940	375	715	1,090	+286	+150
その他	278	114	166	280	114	166	280	+2	-
調整額	△517	△248	△431	△680	△248	△392	△640	△123	+40
合計	17,055	9,721	11,179	20,900	9,721	11,179	20,900	+3,845	-

【経常損益】

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
鉄鋼アルミ	△226	148	252	400	148	202	350	+576	△50
素形材	△121	52	△22	30	52	△22	30	+151	-
溶接	17	20	5	25	20	5	25	+8	-
機械	114	42	38	80	42	58	100	△14	+20
エンジニアリング	44	43	37	80	43	37	80	+36	-
建設機械	127	84	△39	45	84	16	100	△27	+55
電力	206	57	53	110	57	68	125	△81	+15
その他	42	11	24	35	11	44	55	+13	+20
調整額	△43	△17	△37	△55	△17	△28	△45	△2	+10
合計	161	443	307	750	443	377	820	+659	+70

(単位：億円)

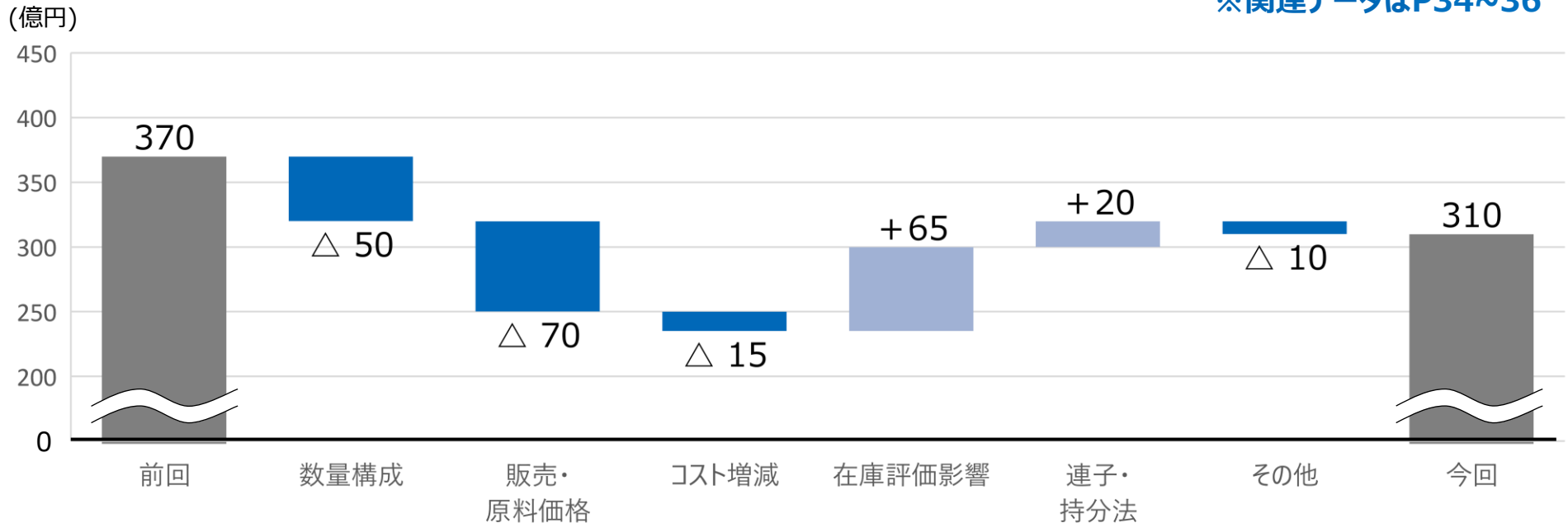
		2020年度 実績	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
			①	上期	下期	②	上期	下期	③	③-①
鉄鋼	売上高	5,638	3,465	4,135	7,600	3,465	4,085	7,550	+1,912	△50
	経常損益	△233	124	246	370	124	186	310	+543	△60
	在庫評価影響を除く	△208	△95	125	30	△95	0	△95	+113	△125
アルミ板	売上高	1,324	807	843	1,650	807	843	1,650	+326	-
	経常損益	6	24	6	30	24	16	40	+34	+10
	在庫評価影響を除く	31	24	△19	5	24	△14	10	△21	+5
合計	売上高	6,963	4,273	4,977	9,250	4,273	4,927	9,200	+2,237	△50
	経常損益	△226	148	252	400	148	202	350	+576	△50
	在庫評価影響を除く	△176	△71	106	35	△71	△14	△85	+91	△120

鉄鋼

前回：370億円→今回：310億円（前回比△60億円）

- 粗鋼生産：660万t程度（前回比△10万t）
- 販売数量：535万t程度（前回比△15万t）
 - ・自動車向け需要の減少に伴う数量減
- 損益変動要因
 - ・販売数量の減少
 - ・原料価格上昇分の販売価格への転嫁時期のずれなどに伴うメタルスプレッドの悪化
 - ・操業影響に伴う一時的なコストアップ
 - ・原料価格上昇に伴う在庫評価益の拡大

※関連データはP34~36



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

（単位：億円）

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	1,324	807	843	1,650	807	843	1,650	+326	-
経常損益	6	24	6	30	24	16	40	+34	+10
在庫評価影響を除く	31	24	△19	5	24	△14	10	△21	+5

前回：30億円→今回：40億円（前回比+10億円）

- 販売数量：350千t程度（前回比△5千t）
自動車向けが減少
- 損益変動要因
 - ・変動費のコストダウン、固定費の削減
 - ・アルミ地金市況の上昇に伴う在庫評価益の拡大

※関連データはP35~36

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	2,381	1,532	1,768	3,300	1,532	1,738	3,270	+ 889	△30
経常損益	△121	52	△22	30	52	△22	30	+ 151	-
在庫評価影響を除く	△131	22	△17	5	22	△37	△15	+ 116	△20

前回：30億円→今回：30億円（前回比±0億円）

■ 販売数量

サスペンション、アルミ押出が自動車生産減の影響により減少

■ 損益変動要因

- ・販売数量の減少
- ・副原料価格の上昇に伴う調達コストの増加
- ・原油価格の上昇に伴うエネルギーコストの増加
- ・銅市況の上昇に伴う在庫評価益の拡大

※関連データはP35~36

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	700	380	380	760	380	380	760	+60	-
経常損益	17	20	5	25	20	5	25	+8	-

前回：25億円→今回：25億円（前回比±0億円）

- 販売数量
前回並み
- 損益変動要因
前回並み

※関連データはP35

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	1,753	797	913	1,710	797	903	1,700	△53	△10
経常損益	114	42	38	80	42	58	100	△14	+20
受注高	※ 1,331	895	1,100 程度	2,000 程度	895	1,150 程度	2,050 程度	+700 程度	+50 程度

※従来は当社と主要な連結子会社の受注高を集計。

当期より当社と全ての連結子会社の受注高を集計する方法に変更したことに伴い、前期の受注高も再集計。

前回：80億円→今回：100億円（前回比+20億円）

■ 受注高

- ・設備投資の回復に伴う産業機械・圧縮機の受注増加

■ 損益変動要因

- ・汎用圧縮機等における採算改善
- ・受注環境の改善に伴う受注工事損失引当金の減少

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	1,361	556	884	1,440	556	884	1,440	+79	-
経常損益	44	43	37	80	43	37	80	+36	-
受注高	1,134	735	1,150 程度	1,900 程度	735	1,000 程度	1,750 程度	+600 程度	△150 程度

前回：80億円→今回：80億円（前回比±0億円）

■ 受注高

- ・還元鉄関連事業において、当期に3基のMIDREX® プラント受注を達成
- ・海外向け都市交通案件の時期ずれ等に伴い前回比減少

■ 損益変動要因・・・前回並み

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	3,331	1,940	1,960	3,900	1,940	1,860	3,800	+469	△100
経常損益	127	84	△39	45	84	16	100	△27	+55

前回：45億円→今回：100億円（前回比+55億円）

■ 販売台数

- 中国：インフラ投資の減退に伴う需要減の中、競争激化により減少
- その他の地域：需要の旺盛な欧州、豪州を中心に堅調に推移

■ 損益変動要因

- ・一部地域における鋼材価格上昇分の販売価格への転嫁の進展
- ・開発費、経費などのコスト削減

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	804	375	565	940	375	715	1,090	+286	+150
経常損益	206	57	53	110	57	68	125	△81	+15

前回：110億円→今回：125億円（前回比+15億円）

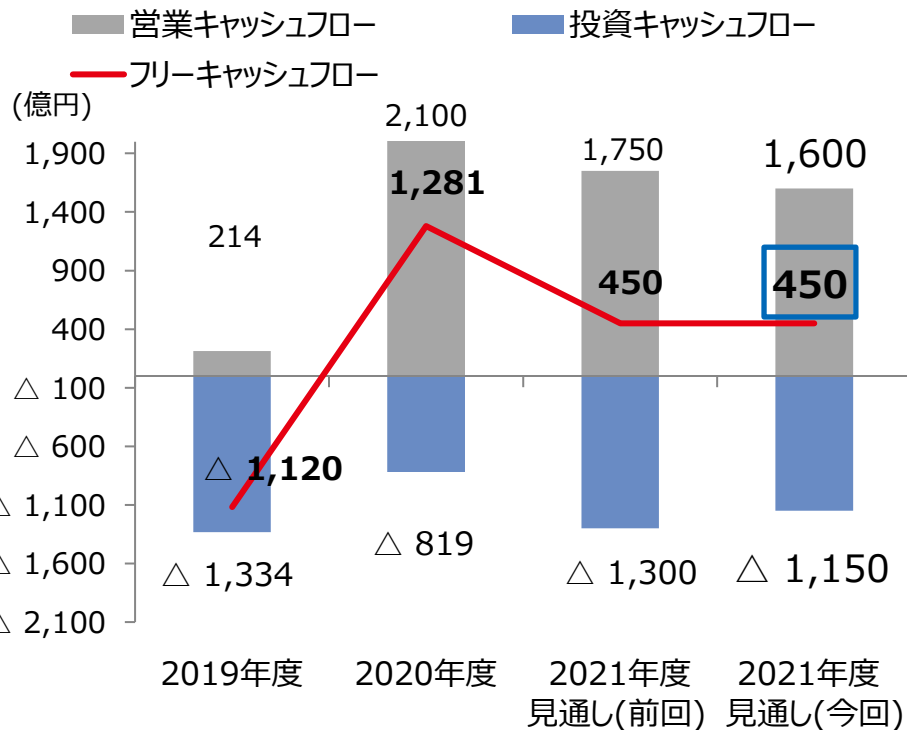
- 販売電力量 … 前回並み
- 販売単価 … 上昇
 - ・石炭価格の値上がりによる影響
- 損益変動要因
 - ・保全費などのコスト削減

- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮して決定することとしております。（配当性向の目安は、親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の15%～25%としております）
- この方針のもと、当期の期末配当につきましては、本日の取締役会において、1株につき20円とする方針を決議いたしました。

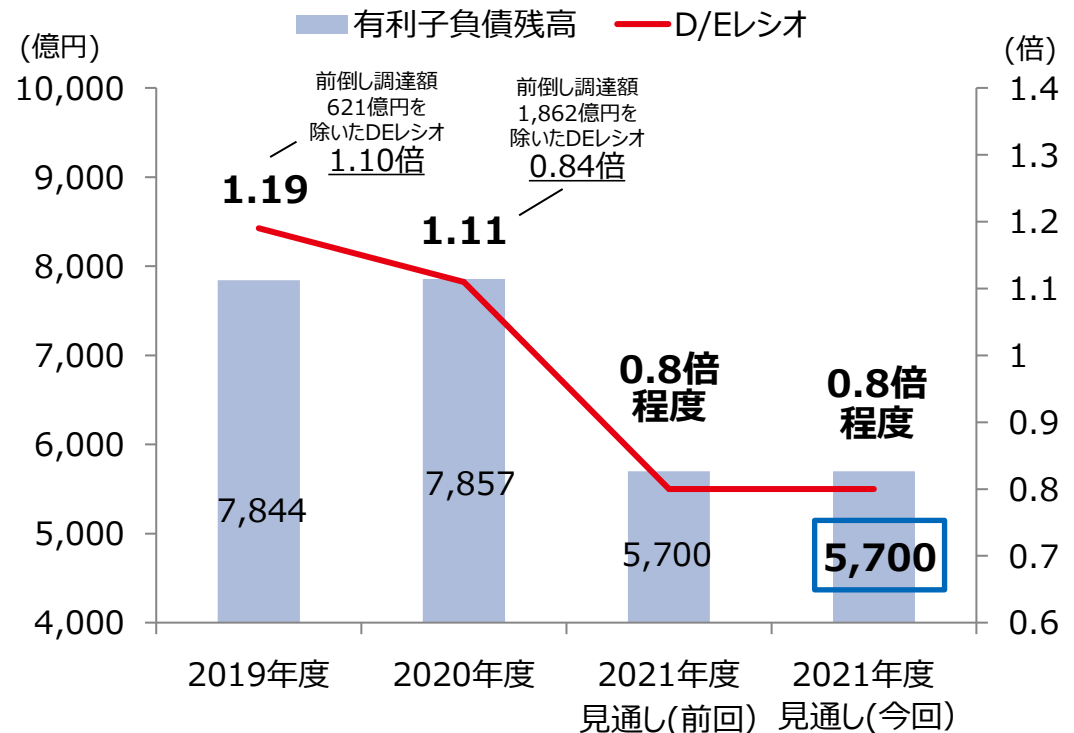
	2020年度			2021年度		
	中間	期末		中間	期末	
配当金額（円/株）	－	10	10	10	20	30
配当性向			15.6%			22.5%

- 新設した「事業ポートフォリオ管理委員会」にて、キャッシュフロー計画のモニタリング強化を実施中。
- フリーキャッシュフローは、販売数量の減少に伴う運転資金の悪化があるものの、設備投資支払の減少により、前回並みの見込み。
- D/Eレシオは、財務基盤の強化に引き続き取り組み、前回並みの0.8倍程度を計画。

《フリーキャッシュフロー》



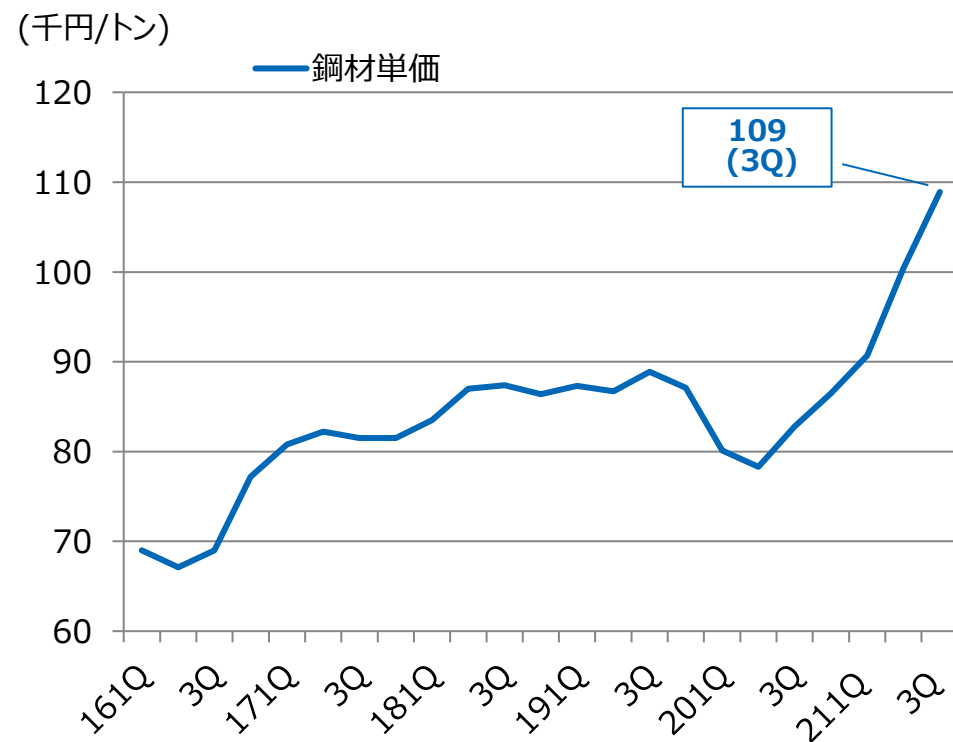
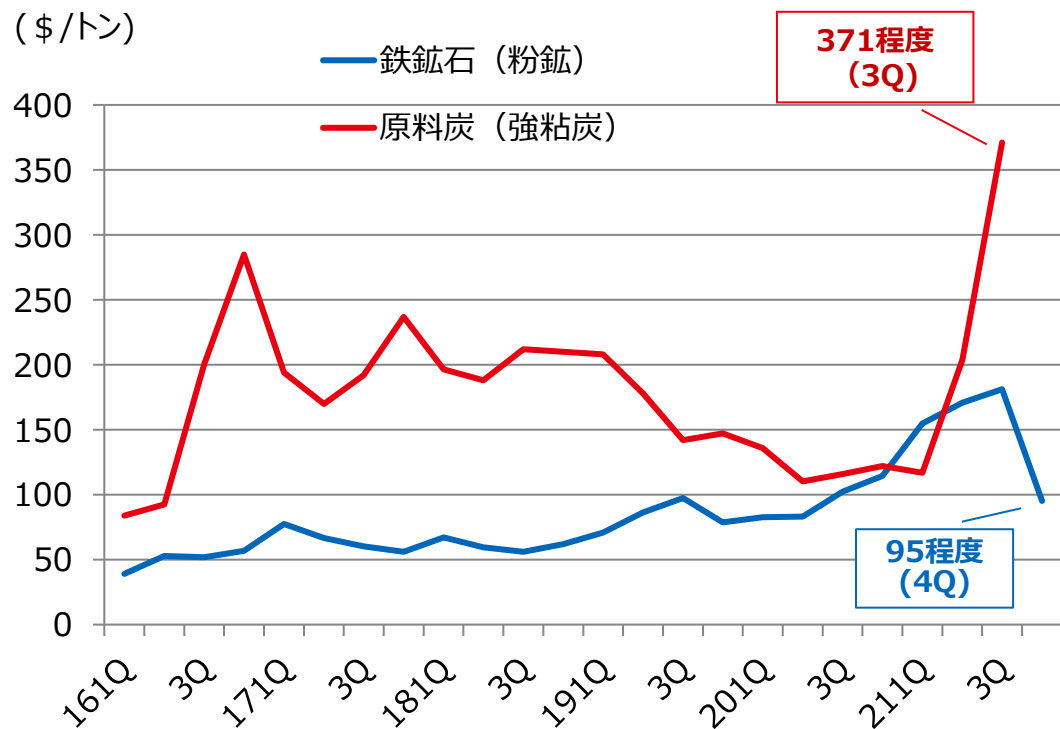
《有利子負債残高・D/Eレシオ》



※フリーキャッシュフローおよびD/Eレシオに、プロジェクトファイナンスは含まない

3. 参考情報

	2020年度実績				2021年度		
	上期	3Q	下期	年度	上期	3Q	
全国粗鋼 (万t)	3,709	2,199	4,570	8,278	4,842	2,420	4-12月計速報
全国在庫水準 (万t)	512	509	507	507	587	611	12月末速報
薄板3品在庫水準 (万t)	367	356	351	351	432	454	12月末速報
国内自動車生産台数 (万台)	335	237	463	798	361	127	4-11月計



	2020年度実績				2021年度 見通し (前回)	2021年度見通し (今回)			
	上期	3Q	下期	通期	通期	上期	3Q	下期	通期
※高砂製作所の電炉の生産数量を含む。									
粗鋼生産量 ※ (万t)	248	165	333	581	670程度	335	164	325程度	660程度
鋼材販売量 (万t)	204	134	269	473	550程度	268	132	270程度	535程度
(うち、国内)	(143)	(100)	(201)	(344)		(203)	(98)		
(うち、輸出)	(61)	(34)	(68)	(129)		(66)	(34)		
鋼材販売単価 (千円/t)	79.1	82.8	84.7	82.3		95.5	108.9		
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.0%	22.3%	23.1%	23.9%		24.9%	26.1%		
アルミ板販売数量 (千t)	152	73	153	305	355程度	179	81	170程度	350程度
(うち、国内)	(121)	(54)	(114)	(236)		(134)	(57)		
(うち、輸出)	(30)	(18)	(38)	(69)		(45)	(24)		
アルミ押出販売数量 (千t)	12	9	18	31	39程度	19	9	18程度	37程度
(うち、国内)	(12)	(8)	(17)	(29)		(18)	(8)		
(うち、輸出)	(0)	(0)	(1)	(1)		(1)	(1)		
銅板販売数量 (千t)	19	14	30	48	60程度	29	15	31程度	60程度
銅管販売数量 (千t)	32	16	35	67	76程度	40	18	37程度	77程度
溶接材料販売数量 (千t)	120	62	121	242	260程度	133	62	130程度	260程度
(うち、国内)	(49)	(26)	(51)	(100)		(53)	(27)		
(うち、輸出)	(71)	(36)	(70)	(142)		(80)	(35)		

(単位：億円)

鉄鋼		2020年度実績				2021年度見通し			
		上期	3Q	下期	通期	上期	3Q	下期	通期
	鉄鉱石	5	20	30	35	60	15	△80	△20
	石炭	△15	5	5	△10	35	75	50	85
	キャリーオーバー	△10	25	35	25	95	90	△30	65
	総平均	5	△45	△60	△55	220	155	185	405
	低価法	△90	100	120	30	0	△5	0	0
	在庫評価影響	△85	55	60	△25	220	150	185	405

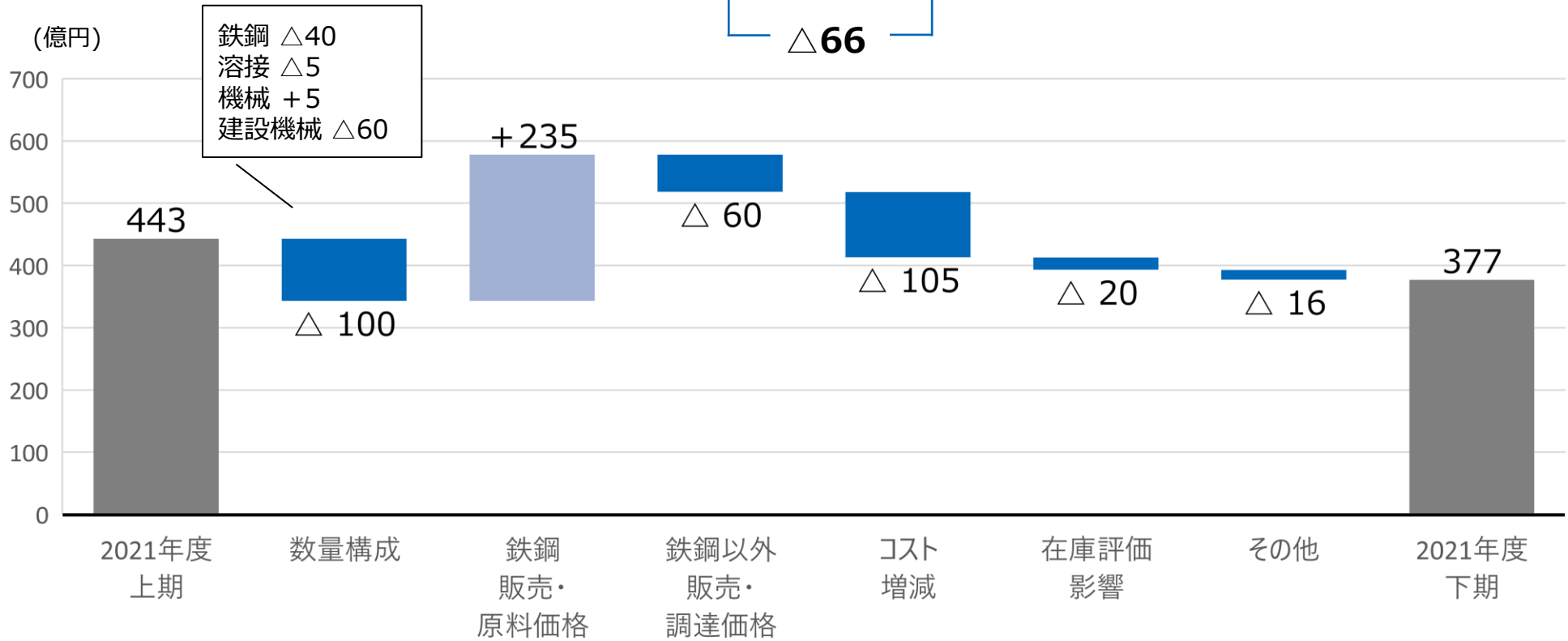
アルミ板		2020年度実績				2021年度見通し			
		上期	3Q	下期	通期	上期	3Q	下期	通期
	総平均	△15	△5	△10	△25	0	25	30	30
	低価法	0	0	0	0	0	0	0	0
	在庫評価影響	△15	△5	△10	△25	0	25	30	30

素形材		2020年度実績				2021年度見通し			
		上期	3Q	下期	通期	上期	3Q	下期	通期
	総平均	0	10	10	10	30	25	15	45
	低価法	△5	△5	5	0	0	0	0	0
	在庫評価影響	△5	5	15	10	30	25	15	45

【経常損益】

（単位：億円）

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
全社	443	377	820



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

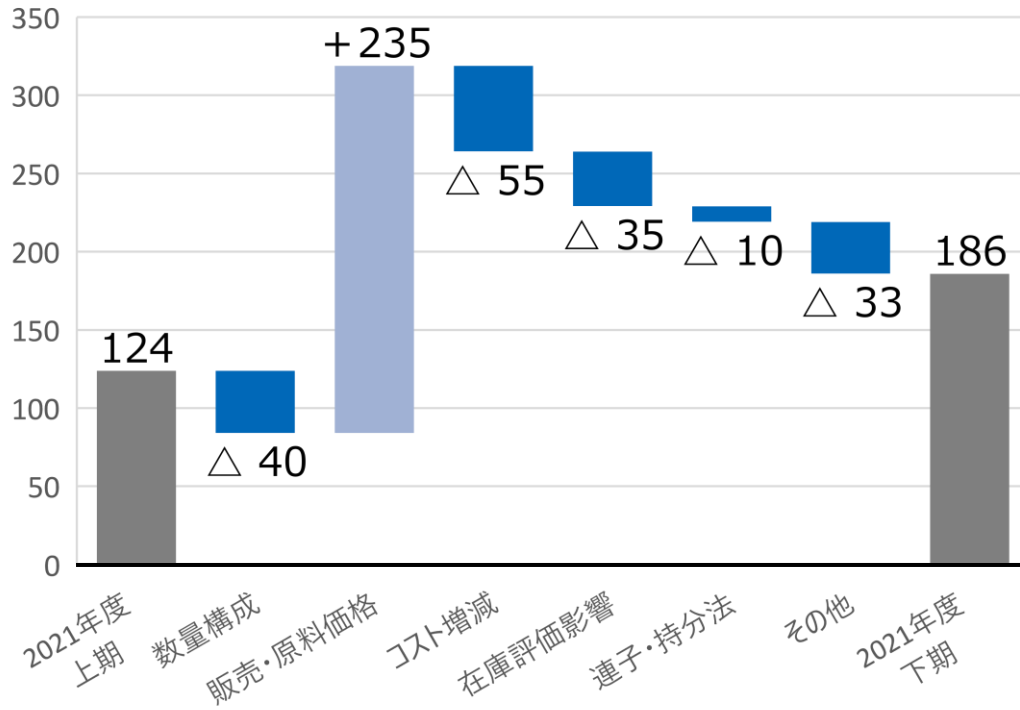
【鉄鋼 経常損益】

(単位：億円)

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
鉄鋼	124	186	310

(億円)

+62

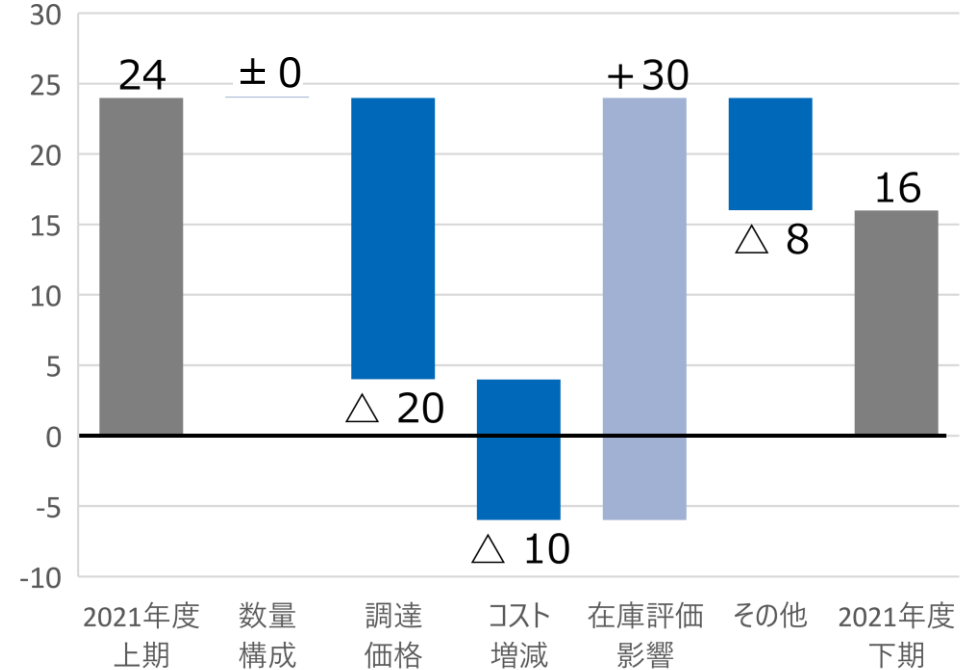


【アルミ板 経常損益】

(単位：億円)

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
アルミ板	24	16	40

△8



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

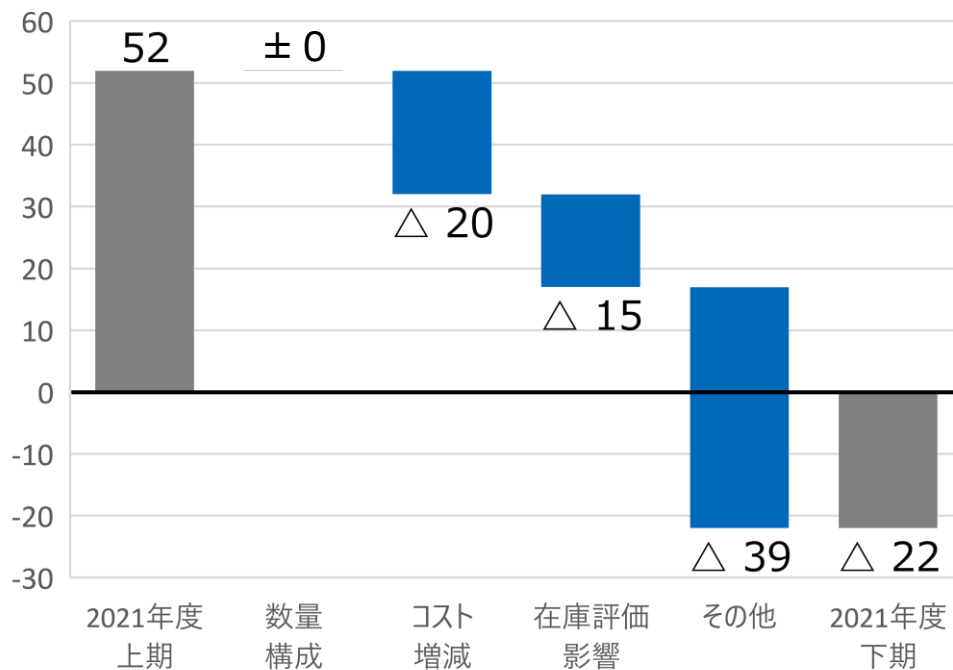
【素形材 経常損益】

(単位：億円)

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
素形材	52	△22	30

(億円)

△74

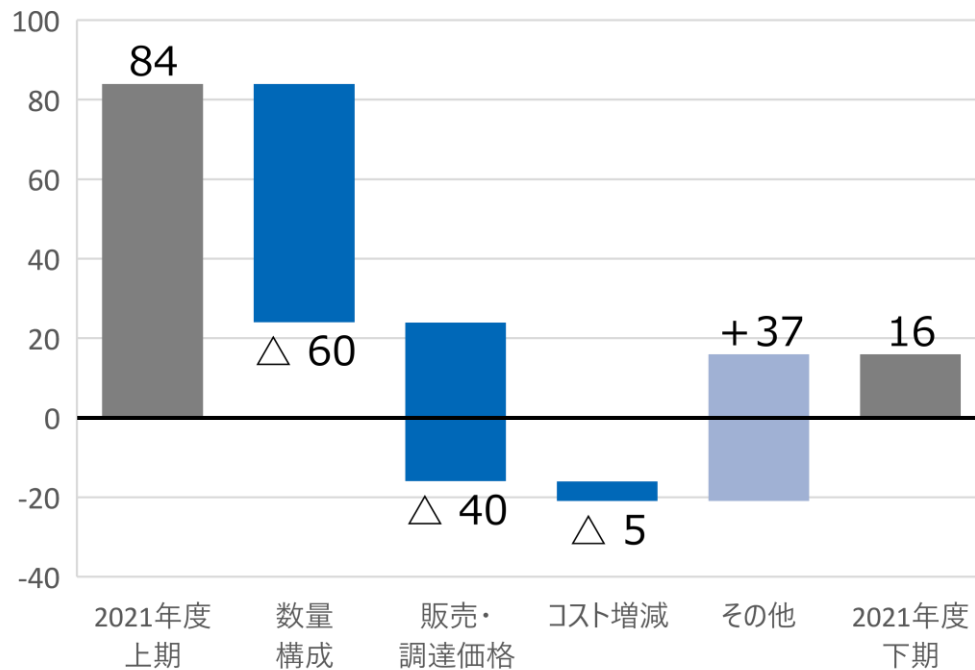


【建設機械 経常損益】

(単位：億円)

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
建設機械	84	16	100

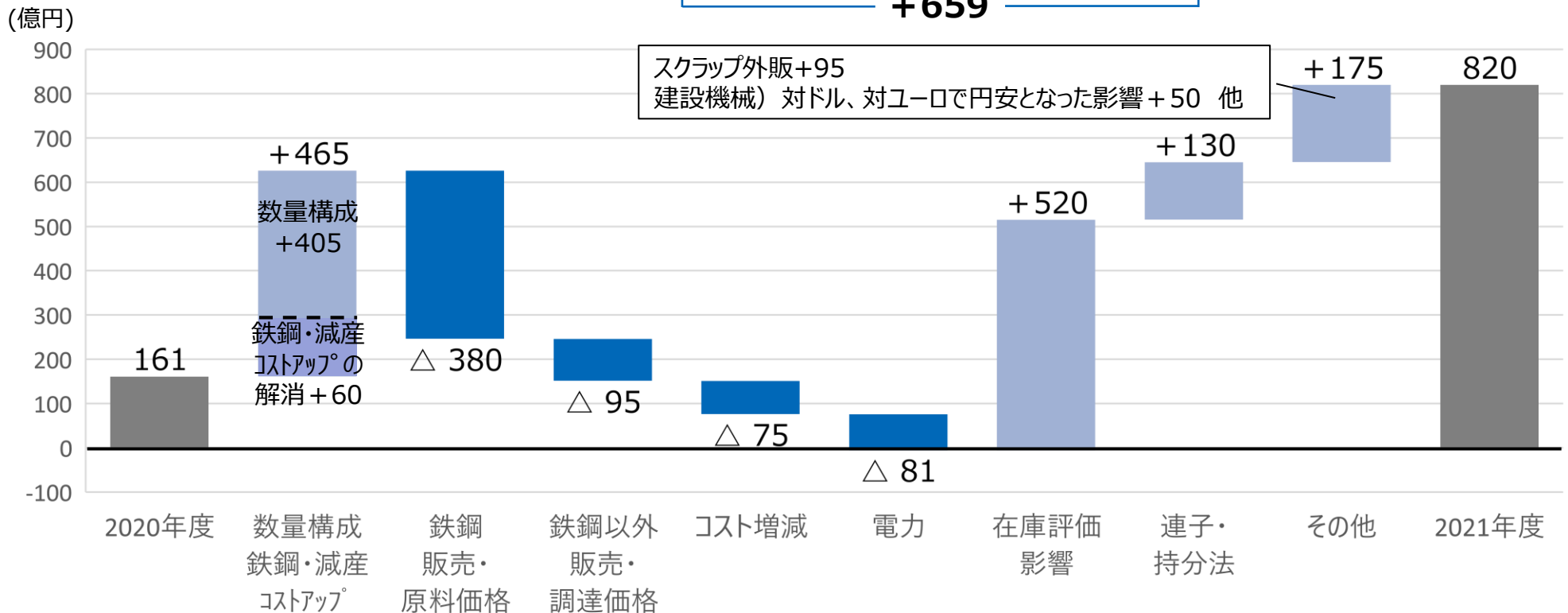
△68



【経常損益】

（単位：億円）

	2020年度 実績	2021年度見通し （今回）		
		上期	下期	通期
全社	161	443	377	820



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

		2020年度 実績 ①	2021年度 見通し(前回) ②	2021年度 見通し(今回) ③
	営業キャッシュフロー	2,100	1,750	1,600
	投資キャッシュフロー	△819	△1,300	△1,150
プロジェクトファイナンスを除く フリーキャッシュフロー		1,281	450	450
プロジェクトファイナンスを含む フリーキャッシュフロー		529	△150	△150
プロジェクトファイナンスを除く 現預金残高		3,018	1,300	1,300

増減	
③-①	③-②
△500	△150
△331	+150
△831	—
△679	—
△1,718	—

(単位：億円)

		2020年度 実績 ①	2021年度 見通し(前回) ②	2021年度 見通し(今回) ③
設備投資：計上額		1,850	1,450	1,350
設備投資：支払額		1,732	1,750	1,650
減価償却費		1,008	1,050	1,050

増減	
③-①	③-②
△500	△100
△82	△100
+42	—

	2019年度実績	2020年度実績	2021年度 見通し（前回）	2021年度 見通し（今回）
1株当たり当期純損益	△ 187.55円	64.05円	133.32円	133.34円
有利子負債	9,066億円	9,878億円	8,250億円	8,250億円
プロジェクトファイナンスを除く 有利子負債	7,844億円	7,857億円	5,700億円	5,700億円
D/ELシオ ※1	※2 1.19倍	※3 1.11倍	0.8倍程度	0.8倍程度
ROS ※4	△ 0.4%	0.9%	3.6%	3.9%
ROA ※5	△ 0.3%	0.6%	2.9%	3.1%
ROE ※6	△ 9.7%	3.4%	6.7%	6.3%
ROIC ※7	0.9%	1.1%	4.1%	4.2%

※1：D/ELシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※2：前倒し調達（621億円）含む。前倒し調達除く2019年度D/ELシオ：1.10倍

※3：前倒し調達（1,862億円）含む。前倒し調達除く2020年度D/ELシオ：0.84倍

※4：売上高経常利益率

※5：経常損益/総資産

※6：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

※7：税引後事業利益/投下資本

	2020年度実績				
	上期	3Q	3Q累計	4Q	通期
	USドル (円/\$)	106.9	104.5	106.1	105.9
中国元 (円/元)	15.3	15.8	15.4	16.4	15.7
ユーロ (円/€)	121.3	124.5	122.4	127.7	123.7

	2021年度 (今回)					2021年度 (前回) 通期
	上期	3Q	3Q累計	4Q	通期	
	USドル (円/\$)	109.8	113.7	111.1	114.0	
中国元 (円/元)	17.0	17.8	17.3	17.0	17.2	17.0
ユーロ (円/€)	130.9	130.1	130.6	130.0	130.5	130.5

2021年5月11日公表資料
 「KOBELCOグループ中期経営計画」

① 安定収益基盤の確立

5つの重点施策

- ◆ 鋼材事業の収益基盤強化
- ◆ 新規電力プロジェクトの円滑な立上げと安定稼働
- ◆ 素材系事業 戦略投資の収益貢献
- ◆ 不採算事業の再構築
- ◆ 機械系事業 収益安定化と成長市場への対応

➤ 5つの重点施策を着実に推進し、新規電力プロジェクトの収益貢献がフルに寄与する2023年度にROIC（投下資本収益率）5%以上の収益レベルを確保し、さらに、将来の姿としてROIC8%以上を安定的に確保し持続的に成長する企業グループを目指す。

② カーボンニュートラルへの挑戦

	2030年目標	2050年ビジョン
生産プロセスにおけるCO2削減	30～40%※1 (2013年度比)	カーボンニュートラルへ挑戦し、達成を目指す
技術・製品・サービス※2によるCO2排出削減貢献	6,100万t (うちMIDREX®4,500万t以上)	1億t以上

※1 削減目標の対象範囲の大半が製鉄プロセスでの削減。2020年9月公表時から見直し
 ※2 当社グループ独自の技術・製品・サービスを通じて社会の様々な分野でCO2排出削減に貢献

電力事業での取組み

電力事業では、バイオマス技術などを利用した地域全体でのエネルギー利用の効率向上等や、アンモニア等を利用した外部の革新技术の活用検討に果敢に取り組む。

- ◆国連グローバル・コンパクト
(2021年3月～)



- ◆経団連「2030年 30%チャレンジ」
(2021年8月～)



- ◆TCFD
(2020年12月～)



- ◆パートナーシップ構築宣言



- ◆内閣府「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言 (2021年8月～)



◆FTSE4Good Index Series
(2021年6月～)



FTSE4Good

ESG投資指数に初選定

◆健康経営優良法人2021
～ホワイト500～
(2021年)



2021
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

2年連続の認定

◆CDP
(2020年12月～)



「気候変動」と「水セキュリティ」で
A-（Aマイナス）の評価

◆FTSE Blossom Japan Index
(2021年6月～)



**FTSE Blossom
Japan**

ESG投資指数に初選定

◆プラチナくるみん
(2019年～)



KOBELCOが 実現したい未来	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来
	安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。
KOBELCOの 使命・存在意義	KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命
	個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつつける。
KOBELCOの 3つの約束	KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します 2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します
KOBELCOの 6つの誓い	「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高い倫理観とプロ意識の徹底 2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 3. 働きやすい職場環境の実現 4. 地域社会との共生 5. 環境への貢献 6. ステークホルダーの尊重

品質憲章

将来見通しに関する注意事項

- ◆ 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまふ可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。

- ◆ 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化